



Les Cailloux du Paradis

レ・カイユ・デュ・パラディ



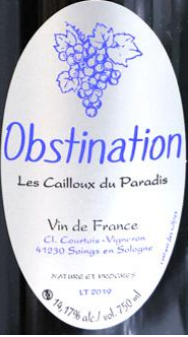
レ・カイユ・デュ・パラディは1995年、クロード・クルトワがソローニュの地で創業し、初期ヴァン・ナチュールの礎を築いた生産者といえる。「農夫であり続けること」を信条に、環境の調和を第一に畑を耕し、18haの敷地のうち2025年現在6haをブドウ畑とし、多様な品種を植え広げてきた。その象徴が、多品種ブレンドで仕立てられる「ラシーヌ・ルージュ」である。2010年頃から三男エティエンヌがワイン造りに参加し、2012年には初の単独キュヴェ「イコネ」を手がけた。以後、彼にワイナリーの運営が少しずつ委ねられ、クロードは2019年のラシーヌ・ルージュを最後に第一線を退き、小規模な単一品種キュヴェを造る一方で、エティエンヌが栽培・醸造の中心を担っている。父の精神と実践を受け継ぎつつ、新しい世代の視点を織り交ぜることで、ワイナリーは新たな段階へと歩みを進めている。

◆2023VT以降の熟成容器

クロードからエティエンヌへと受け継がれたレ・カイユ・デュ・パラディのワイン造りは木製樽を使っていたものの、遅霜と病害に見舞われ収穫量がほとんど確保できなかった2021VTはワイナリーのほとんどの樽を満たすことができなかった。多くの古樽を廃棄せざるを得ない事態となり、エティエンヌは代わりに珪器 (jarre en grès) を導入した。よって2021VTまでは木製樽で熟成。2022VTはグラスファイバータンクと珪器、2023VTのワインは珪器が主体、2024VT以降のワインは珪器と木製樽を併用している。

	○VdF - Lou 2022 ルー			備考	エティエンヌの子供の誕生を記念して2021年に作られたかったが、大電害のため断念。普段はラシーヌ・ブランにブレンドされているアリゴテ単一で、醸造。
	畑	品種：アリゴテ100% 植樹：2012年 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	○VdF - Maïa 2017 マイア			備考	2017年に誕生したエティエンヌの娘マイアの名にちなみ名付けられたキュヴェ。マセレーションは数日なので、果実のフレッシュさが損なわれず、アロマティックな香りの成分がよく出ている、非常に華やかなワイン。
	畑	品種：ソーヴィニオン・ブラン、ムロン・ド・ブルゴーニュ 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	○VdF - Or' Norm オル・ノルム			備考	キュヴェ名は、フランス語の"Hors Norme"="規格外"という言葉、"Or"="黄金"ともじった。ソーヴィニオン・ブランを可能な限り選摘みし、ボトリティスも多く含まれる。辛口のカテゴリーではあるが、少し残糖があり、品種特性とボトリティスの影響も相まって、香りはアロマティック。
	畑	品種：ソーヴィニオン・ブラン100% 植樹：1986年 位置：南南東向き 土壌：目方が重く分厚い粘土質・シレックス	醸造		
	○VdF - Evidence エヴィダンス			備考	選摘みのムニユ・ピノで、ボトリティスも多く含まれる。しかし甘口ワインではなく、(残糖は少しあるものの)ドライに仕上げ、更に酸化熟成(補酒をほとんどしない)により複雑な香りをまとう。
	畑	品種：ムニユ・ピノ100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Racines Rouge ラシーヌ・ルージュ			備考	フランスでは強烈な信奉者から支持される。一口飲めば、そのあたりの優しさに2杯、3杯とすすんでしまう。1995年から造り出し、2015VTは20周年となる、クロード・クルトワの代表作。文献を調べ、ロワールでは現在は植えられることのなくなった品種を、20種以上アッサンブラージュしている。
	畑	品種：ガメ、カベルネ・フラン、コ、ピノ・ノワールなど 植樹：ガメ1969年、カベルネ・フラン1969年、コ1999年、ピノ・ノワール1998年ほか 位置：標高110m、南東向き 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Cuvée des Etourneaux キュヴェ・デ・ゼトルノー			備考	エトルノーは、和名でムクドリという小さな鳥。収穫の時、ムクドリが目の前でブドウを食べに来ていた。樹齢40年の古木のガメから造られる赤ワイン。チャーミングななかにも力強さを秘めた、広がりのある味わい。時間とともにどんどん香りが開いていく。早く飲むのではなく、熟成させた方がよいタイプのガメ。
	畑	品種：ガメ100% 植樹：1974年 位置：標高110m、南西向き 土壌：粘土質、シレックス	醸造		

	●VdF - L'Icaunais リコネ			備考	多くの品種を栽培しているクルトワ家。その中でも特に可能性を見出した品種ガスコン。早いうちから、三男のエティエンヌは特にガスコンを気に入り、リコネの2012年の出来を味わって、クロードは、エティエンヌは大丈夫だと思ったそう。イコネとはブルゴーニュのヨンヌ県の人々のことをさし、ガスコンもヨンヌ県が起源とされる。
	畑	品種：ガスコン100% 植樹：1998年 位置：標高130m、西向き 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Le Pinot Noir ル・ピノ・ノワール			備考	20種以上の品種がアッサンブラージュされている、ラシーヌ・ルーージュに使われた品種を、モノ・セパージュで醸造するという、クロードの長年の構想。彼の友人が書いてくれた、それぞれの品種のスケッチがそのままエチケットになっている。 ピノ・ノワールは一足先に2006年から造られているが、構想が実現するとともに、エチケットもリニューアルした。
	畑	品種：ピノ・ノワール100% 植樹：1998年 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Cabernet Franc カベルネ・フラン			備考	20種以上の品種がアッサンブラージュされている、ラシーヌ・ルーージュに使われた品種を、モノ・セパージュで醸造するという、クロードの長年の構想。彼の友人が書いてくれた、それぞれの品種のスケッチがそのままエチケットになっている。 クロードらしい、酸とミネラルを基調とした、カベルネ・フランの解釈。
	畑	品種：カベルネ・フラン100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Côt コー			備考	ラシーヌ・ルーージュに使われた品種を、モノ・セパージュで醸造するという、クロードの長年の構想。彼の友人が書いてくれた、それぞれの品種のスケッチがそのままエチケットになっている。
	畑	品種：コー100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		

	●VdF - Le Genouillet ル・ジュヌイエ			備考	ラシーヌ・ルージュに使われきた品種を、モノ・セパージュで醸造するという、クロードの長年の構想。彼の友人が書いてくれた、それぞれの品種のスケッチがそのままエチケットになっている。ジュヌイエはブルゴーニュ北部からロワールにかけてフィロキセラ前まで栽培されていたと考えられている品種。
	畑	品種：ジュヌイエ100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Obstination オブスティナシオン			備考	Obstination=「執念」「頑固さ」「粘り強さ」「諦めない心」。ロワールではシラーが植えられていたという文献の記述をもとにクロードが植樹したシラー。かつてはアルカトラズというキュヴェでもリリースしていたが、シラーの植樹とそのワインのリリースは原産地呼称委員会との間に多くの軋轢を生み、2005年以降シラー単一はリリースされていなかったが、2019、2020と徐々にシラー単一の本キュヴェがリリースされた。
	畑	品種：シラー100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Cuvée Raymond キュヴェ・レイモン			備考	2021年は収量減のためクロードは3樽分しか収穫ができなかった。そのためすべての品種をアッサンブラージュしてキュヴェ・レイモンを瓶詰めした。レイモンとはクロードの父の名前のように、このエチケットは少なくとも70年以上前には存在しており、レイモンがブルゴーニュでワインを造っていた時代に用いていたものだろう。2022VTはもともと造る予定ではなかったそうだが、豊作だったため、エティエンヌにクロードがブドウを分けてもらいレイモンを生産した。
	畑	品種：複数品種のアッサンブラージュ 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Secalaunia スカロニア			備考	スカロニアとは、7世紀の頃に、クルトワ家の住む、ソーニュー帯の呼び名。ミステル（甘口ワイン）の保存用の100年以上前から使われていた600Lの樽に2010年の収穫の果汁を品種を混ぜて熟成させたところ、面白い熟成をしていたため、最終的に100ヵ月（約8年）の超長期熟成にもなった。2010VTのみのリリース。
	畑	品種：カベルネ・ソーヴィニオン、ロモランタン、ムニユ・ピノ、ガスコ 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		
	●VdF - Camille カミーユ			備考	2015年に誕生したエティエンヌの息子カミーユの名にちなみ名付けられたキュヴェ。果皮の成分の抽出は多く、色は濃い黄色～オレンジ色。酸とタンニンの骨格がある。
	畑	品種：ロモランタン100% 位置：標高110m 土壌：粘土質、シレックス	醸造		